

Simple、Speedy、Safety。 3つのSを実現した理想的な療養空間へ。



個室Aは、4タイプある個室のうちでいちばん広く、トイレとシステムバスルームが備えられている。便器の両側には、立ち座りや座位安定の手すりを設置。左に少し見えるのは壁掛けハイバックタイプの洗面器である。

新しい小倉記念病院が2010年10月、交通至便な小倉駅新幹線口前に竣工し、12月末から移転開業しました。循環器内科・心臓血管外科において高く評価される地域中核病院の2F玄関は、歩行者デッキによって小倉駅と直結。以前の建物の老朽化、患者数の増加による廊下や待合の混雑などの問題を一気に解消し、日本全国そしてアジア地域からの患者さんを広く受け入れられる、充実した医療環境が整いました。最高の医療とともに、最高の療養環境の実現を目指し、心の通ったおもてなしの空間演出がなされています。

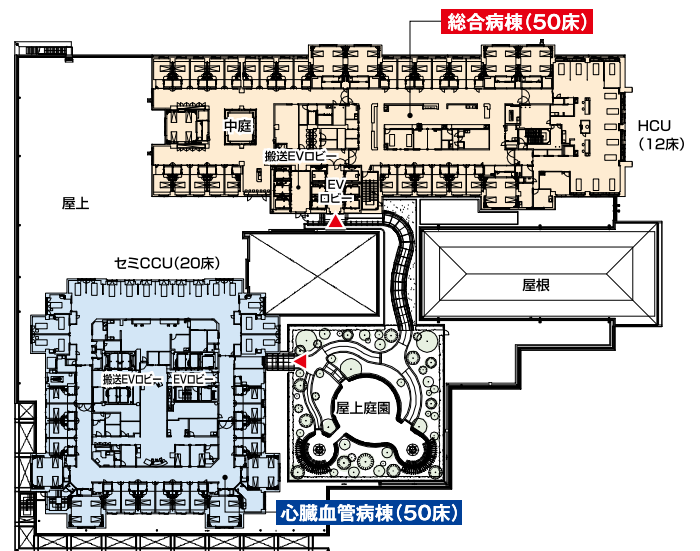
心臓血管病棟と総合病棟のツインタワー。 堂々の風格とともに機能美を追求。

新しい建物は、10階建ての心臓血管病棟と13階建ての総合病棟からなるツインタワー。外来診療機能としての低層部と、病棟機能としての高層部という構成にもなっています。関連部門間の動線の最短化を考えた空間設計がなされています。



品格あふれる低層部と、そびえ立つツインタワー。周辺の街並みとの調和がはかられている。

- 【社会保険 小倉記念病院】
- 竣工年月／2010年10月
- 所在地／福岡県北九州市小倉北区浅野3-2-1
- 施主／財団法人 平成紫川会
- 設計／株式会社日建設計
- 施工／清水建設株式会社 他
- 病床数／658床
- 延床面積／86,321.02m²
- 構造規模／鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造 地下1階、地上13階、塔屋1階



5F平面図



2層吹き抜けの心地よい受付ロビー。病棟ごとのサインが明確に色分けされている。



空間の中央に中庭を設けることにより、広い空間でもどこにいるかがすぐわかる。

病院に重要なロングライフ機能を果たし、揺るぎない地域医療に貢献する建築。

旧病院の約3倍の広さを誇る空間の中で、小倉記念病院の経営方針の一つである3S…Simple、Speedy、Safetyが実行されています。Simpleでは、わかりやすい動線計画・サイン計画により、広い空間を交通整理。Speedyでは、エレベーターの台数を増やし、心臓血管病棟の廊下を短くするなど、俊敏な対応を可能としています。また、Safetyでは、極めて頑強な建物構造によって、耐震性に配慮。ロングライフ建築の中に将来的な拡張スペースを分散配置し、さまざまな変化に対応できるようにしています。

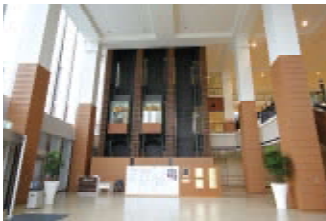
建築設計のポイント

心地よさを追求した空間設計

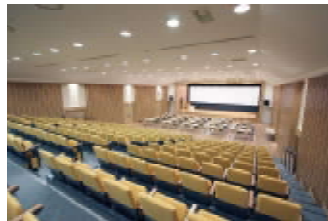
- 天井高 2.8m ●廊下幅 2.8m → ゆとりあるスクエアな空間に
- ベースの木目色にこだわる → シンプルにして色数を少なく

スタッフの働きやすさを重視

- シンプルな最短動線 → 中庭を中心に、縦横がベースの構成
- 病棟ごとのサインを明確に色分け → 心臓血管病棟：赤、総合病棟：青、健康管理フロア：緑
- エレベーターの台数を増やす → 4F までは24基も！



心地よいシースルーエレベーター。台数が多いことで待ち時間が短縮され、快適である。



4Fの講堂は可動いす500席。朝礼・講演・心カテライブなど、多目的に利用されている。



心臓の形をイメージした、5Fにある屋上庭園。2つの病棟からアクセスしやすい。

国際的な医療ニーズに対応した特別病室を最上階に設置。

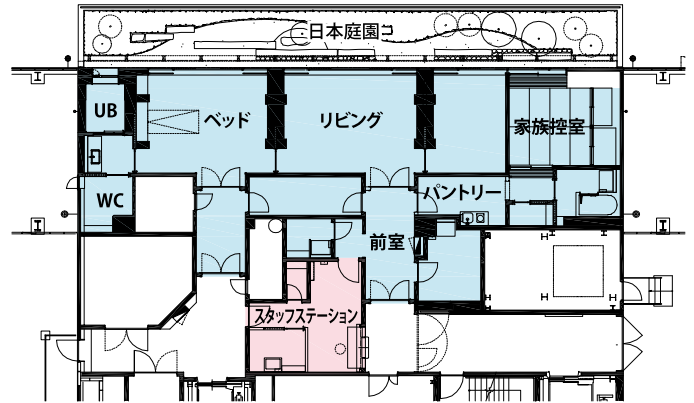
心臓血管病棟、総合病棟のそれぞれの最上階には、特別病室を設置。外国の要人なども迎えることができます。グレードの高いホテルのスイートルームに比べてもまったく遜色のない、ホスピタリティと機能性にあふれた上質な療養空間で、国際的なニーズにも対応。世界に開かれた空間は、新しい小倉記念病院の入院環境としても注目されています。



心臓血管病棟の最上階にある特別病室のリビング。心地よい「和」のしつらえが施されている。



特別病室のトイレは、安心して使えるさまざまな機能を備えている。



心臓血管病棟の特別病室平面図

Voice 設計担当の方からの声

院長先生とダイレクトに話し、いっしょに設計しました。



株式会社日建設計
設計部門 設計部長
大守昌利さん

院長先生自らが骨格を考えられて、打ち合わせのたびに本当の想いをダイレクトにうかがったので、いっしょに設計をさせていただいた気分です。はっきりしたコンセプトがあり、ぶれずに設計できたことが、良い空間づくりにつながったと思います。シンプルで、わかりやすいからこそ、魅力がいっぱいの空間になったのではないのでしょうか。広さもポイントでしたが、ゆとりをあちこちに与えていったという感じですね。植栽も重視し、木を選定するのにも鹿児島や宮崎まで院長先生がいっしょに来られたんですよ。

インテリアは日建スペースデザインが担当しましたから、細部までトータルにご提案できたという意味でも理想的な仕事でした。いかにもトイレだというインテリアにはしたくない、そんなしつらえも実現できたと思います。



4床室のトイレは、車いすで利用できる広さを確保。座位の安定のために背もたれを設置し、汚れがたまりにくい巻上巾木を採用。



個室Aのトイレ。明るくインテリア性の高い空間が、トイレのイメージを変えている。



個室Cもゆとりの空間。ベッドの右横に少し見えているのが、手洗いのスペース。

車いすで快適に使用できる広いトイレ。 その置き方も、ゆとりある空間を考慮。

すべてのトイレにおいて、ゆとりと快適性を重視。車いす用のトイレは、なるべく男性用と女性用を分けて確保しています。従来の病院にはなかったスタッフ用のトイレも各病棟に2つずつ設けられました。

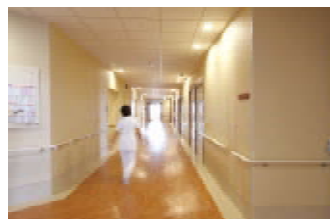
病室は、個室と4床室の比率がほぼ半々ぐらい。個室は、部屋の広さと水まわりのグレード感の違いでA~Dの4タイプのバリエーションをつくり、いろいろな患者さんの要望に応えられるようにしています。いちばん面積の小さいDタイプでも部屋の幅が3.2mもあるため、入り口に設置したトイレ・シャワー空間をゆったりと横置きし、とても広い感覚で使うことができます。

4床室には、しっかりした広さの車いすトイレを設置。病室自体も1床あたりが約10㎡と広く、スクエアな心地よい空間が、早期の回復をうながすように設計されています。すべての設計が、患者さんの幸せ、職員の幸せ、地域の幸せにつながるように配慮されている…そんな小倉記念病院らしさを感じることができます。

トイレ設計のポイント

すべてのトイレを広く清潔に!

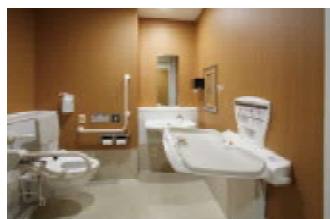
- 4床室トイレ → 車いすがラクに入れる男女別の広いトイレ
壁掛便器、巻上巾木などで清掃性を向上
- 個室トイレ → 4つのタイプを確保（右側図面参照）
- 外来トイレ → すべてのブースにウォシュレットと手すり
- スタッフ用トイレ → 各病棟に2つずつ設けて職員に配慮
女性用と、女性・男性共用のトイレ



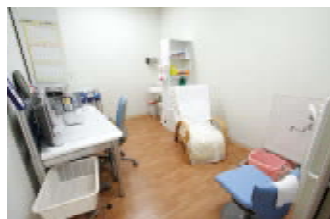
天井高2800×廊下幅2800のスクエアで心地よい空間が、医療のベースを支えている。



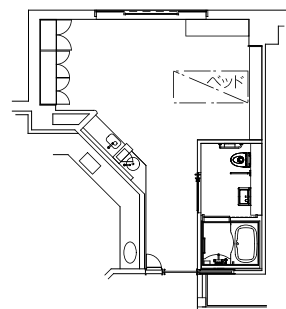
外来のトイレのサインもシンプルで明確である。



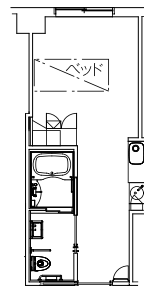
外来の多機能トイレ。オストメイトの方に配慮した汚物流しや、ベビーベッドなどを設置。



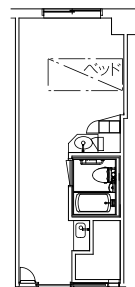
フットケアルームでは、糖尿病の患者さんの足を洗い壊疽を防ぐなどの処置を施している。



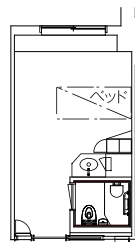
個室A 総合病棟 10室
心臓血管病棟 8室
トイレ、浴室付(システムバスルーム)



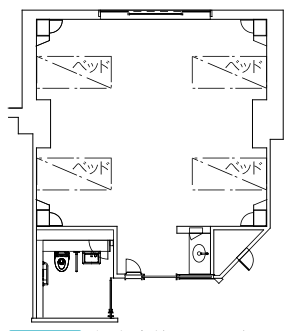
個室B 総合病棟 0室
心臓血管病棟 8室
トイレ、浴室付(システムバスルーム)



個室C 総合病棟 14室
心臓血管病棟 16室
トイレ、浴槽付(3点ユニットバス)



個室D 総合病棟 134室
心臓血管病棟 86室
トイレ、シャワー付(シャワールーム)



4床室 総合病棟 41室
心臓血管病棟 28室
トイレ、洗面コーナー

小倉記念病院 院長 延吉 正清さん インタビュー 「シンプル・イズ・ベスト」を基本に、 みんなが幸せになれる場所を考えました。



**かなり大きな病院ですけど、
わかりやすいことが特長です。**

複雑な設計は、いららないです。動線は基本的に縦と横の線で、斜めはらない。だから大きな病院ですけど、わかりやすい。「シンプル・イズ・ベスト」が僕の哲学です。土台が頑強ですし、鉄橋に使うような厚い鋼材を使っていますから、建物の耐震性は極めて強い。壁もガラスも厚いから、遮音性も高い。そういう基本構造は、とにかくしっかりさせました。日本で一番と言えるくらい交通の便も良いですし、移転してから患者さんの数は3割くらい増えているでしょうね。

**大切なのは、使いやすさです。
格好よさは、後で古びてきます。**

2.8mという天井の高さは絶対に譲りませんでした。天井が低いと、どんなにきれいにつくっても圧迫感があります。それにトイレは特に大切だという考えで、数を大幅に増やし、医療スタッフ専用のトイレも男女別につくりました。それぞれの設備や空間は、使いやすさを大切にしました。格好よさは、だんだん古びてくるんですよ。そして、患者さんの幸せを支える職員がどうしたら働きやすくなるかを、みんなを代表して考えました。スタッフが良くないと、その病院は良くならないですからね。

新しい空間・設備になって思うこと ～小倉記念病院・看護師さん座談会～



看護部 教育担当部長
里田佳代子さん

仮屋崎:私は皮膚・排泄ケアの看護師なので、オストメイト用のトイレが増えたのは喜ばしいことです。ただ逆に、患者さんが設備の充実したトイレでなければ対応できなくなることもあります。私たちは日常生活に戻られた後のことも指導しているので、今後引き続き対策を考えなければなりません。それに、シャワーが出るところが便利だと言って、必要な洗浄以外のことにも使ってしまう患者さんもいるので、生活指導で十分に説明していきたいと思います。

井上:個室の数が増えて、トイレの数もかなり増えたのが良かったです。ノロウイルスや吐物などによる汚染を考えると、共同で使うトイレが少ないことはしっかりした感染対策になります。手洗い場も多くなって、処置の前でスムーズに手洗いのできる環境が整ったことも良かったです。段差のないバリアフリータイプになったことで、看護側の介助への負担も減りましたね。

巢元:自動止水栓になったことは良かったですね。手を使わなくても水が出ること、使い終われば勝手に水が止まること。これは感染対策面でも節水面でも良いことだと思います。ただし、センサーや水はねなど、改善すべき点はあるような気がします。特にしっかり手を洗う感染用の手洗い槽は、サイズを大きめにとったほうがいいと

思いますね。

里田:個室が多いことで、患者さんがとても自立してきました。トイレがベッドサイドにあると、自分で歩いて行こうとする意識が高まっているようです。食事の時にベッドから降りて、眺めのいい海のほうを向いて食べたりしていますし、離床が進むんじゃないかなと思います。防音効果が高いので、患者さんがよく眠れるというお話もよく聞きます。あとは、フットケア外来というのもあって、糖尿病などの方が足をケアして洗える水場もつくっています。寝たきりの患者さんがストレッチャーごと入れるシャワー室ができたことも良かったですね。

井上:病棟勤務のときは、13Fのスタッフ用の食堂で、海を見ながら気分転換できたのがうれしかったですね。



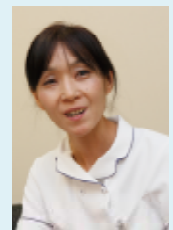
CCU 科長
巢元美佐さん



腎センター
感染管理認定看護師
井上恵美さん



13Fにある職員用の食堂からは、関門海峡を一望できる。スタッフを大切にしたい、絶景の食堂である。



看護相談科
皮膚・排泄ケア
認定看護師
仮屋崎通子さん